

基礎看護学実習

1 目的

臨地実習を通して、看護学を学習する動機を明確にし、対象への看護を行う職業人としての基礎的能力を修得する。さらに、さまざまな状況にある対象の健康・生活上の課題を把握し、看護を実践するための基礎を学ぶ。

2 実習別目的と目標

1) 基礎看護学実習 I-1

医療施設における看護援助場面の見学を通して、看護の機能・役割を理解するとともに、看護師としての基本姿勢を考えることができる。

2) 基礎看護学実習 I-2

日常生活行動に制限や健康障害のある対象の生活援助の場に参加し、看護者と共に、看護技術の基本原則を踏まえた日常生活援助を体験する。

3) 基礎看護学実習 II

様々な状況にある対象を理解し、対象の健康・生活上の課題を把握し、思考過程を踏まえながら看護を実践する基礎的能力を養う。

区分	目的	目標	単位	時期
I-1	医療施設における看護援助場面の見学を通して、看護の機能・役割を理解するとともに、看護師としての基本姿勢を考えることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病院のサービス機関としての取り組みを理解できる。 2) 対象の入院生活の環境や療養生活、対象に行われている看護援助を知る。 3) 看護を学習する姿勢を確認することができる。 4) 看護学生としての責任を自覚し行動できる。 	1 単位 (45) (10)	1 年次 6 月
I-2	日常生活行動に制限や健康障害のある対象の生活援助の場に参加し、看護者と共に、看護技術の基本原則を踏まえた日常生活援助を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の思いに配慮し、看護師等と積極的にコミュニケーションをとることができる。 2) 対象の療養環境と行われている日常生活援助について理解することができる。 3) 対象に沿った観察技術・日常生活援助の実際を体験し看護について考えることができる。 4) 専門職業人としての基本的な態度を身につける。 5) 実施した援助を振り返り、今後の自己の課題を明確にできる。 	(35)	1 年次 11 月
II	様々な状況にある対象を理解し、対象の健康・生活上の課題を把握し、思考過程を踏まえながら看護を実践する基礎的能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。 2) 対象に積極的に関わり、人間関係を築く事ができる。 3) 対象に沿った日常生活援助を科学的根拠に基づいて考えることができる。 4) 安全・安楽に配慮し対象の自立を妨げない援助を一部実施することができる。 5) 対象に関わる医療従事者の役割を知ることができる。 6) 実践を通して看護師としての自己を見つめることができる。 7) 実践した援助について問題意識を持ち、学習意欲を保持して実習に取り組むことができる。 	2 単位 (90)	1 年次 2 月

3 構成

実習科目	単位数 (時間数)	実習場所
基礎看護学実習 I	1 単位 (45 時間)	横浜旭中央総合病院 新戸塚病院 東戸塚記念病院 菊名記念病院
基礎看護学実習 II	2 単位 (90 時間)	日本医科大学武蔵小杉病院 横浜新都市脳神経外科病院 相原病院

4 実習スケジュールと学習内容

1) 基礎看護学実習 I-1

《事前学習項目》

- ①病院の機能と役割について調べる。
- ②病院で働く専門職業の職種とその業務内容について調べる。
- ③病院に入院している対象とはどのような人なのか考える。
- ④使用する実習施設の概要について調べる。

日程	行動予定	学習内容	記録
1 日 目	<p>9:30~12:00</p> <p>○病院施設オリエンテーション 指定された場所に集合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習病院の理念 ・看護部の理念 <p>13:00~15:00</p> <p>○病院施設見学 グループに分かれ病院見学をする。 各部署により担当者からの説明を受ける。積極的に行動し、疑問点は質問する。</p> <p>15:00~16:00</p> <p>学生カンファレンス 病院の機能・役割について</p>	<p>▲身だしなみを整え指定場所に集合する。</p> <p>1) 病院のサービス機関としての取り組みを理解できる。 (1)実習病院の理念及び看護部の理念を学習する。 (2)地域との関連や病院がもつ役割を理解する。</p> <p>2)各部署の見学と説明をうけ役割や機能を知る。 (1)外来、検査部門、手術室、解剖室、その他の構造上の位置関係 (2)外来部門の救急部、検査室、放射線科 (3)医事課、栄養科、リハビリテーション科、薬剤科、医療相談、その他の部門の業務内容 (4)各部門で働く専門家の職種と役割 (5)施設利用者にわかりやすい表示や工夫 (6)施設の安全対策</p> <p>3) 看護学生としての責任を自覚し行動できる。 (1)学生がお互いに協力しカンファレンスを運営する。 (2)グループダイナミックス</p>	事前学習 実習記録 (行動計画表)
2 日 目	<p>8:30~12:00</p> <p>配置された病棟へ 挨拶する。 担当の看護師の指示に従い、実際の看護を見学する。</p> <p>13:00~14:00</p> <p>学生カンファレンス 看護師の機能と役割について</p>	<p>1)入院生活の環境や療養生活を知る。 (1)療養環境 ・自宅の生活と入院生活との違い</p> <p>2)看護師の対象への看護を見学し、看護師がどのように対象に接し、どのように看護を提供しているかを知る。 (1)対象に対する対応の方法 (2)看護技術の提供 (3)対象への配慮や心遣い</p> <p>3) 看護学生としての責任を自覚し行動できる。 (1)学生がお互いに協力しカンファレンスを運営する。 (2)グループダイナミックス</p>	実習記録 (行動計画表)

《実習終了後のまとめについて》

- ①まとめのシートに従い、実習のまとめをグループ毎に行う。発表することをふまえて資料を用意する。
- ②グループの発表内容を通して、施設の違いによる経験を共有し、互いの学習に生かすことができる。

《提出記録》

実習記録は、一つのファイルに次の順序で閉じ、指示された日時に提出する。

- ①出席表
- ②実習行動計画表（日々記録）

2) 基礎看護学実習 I - 2

日程	行動予定	学習内容	記録
事前学習	<p>実習全体オリエンテーションを受ける。</p> <p>実習準備学習を進める。</p> <p>看護技術の練習をする。</p>	<p>1) 病棟の特徴、概要、病棟に多い患者の疾患について解剖生理の復習をする。(基礎看護学実習 I-1 と同じ施設で実習することを基本とする)</p> <p>2) 下記の項目について生活援助技術の基本援助計画を作成し、練習を行う。</p> <p>①バイタルサイン測定とフィジカルイグザミネーション ②清拭と寝衣交換、③陰部洗浄とおむつ交換、④体位交換、 ⑤環境整備、⑥食事介助 など</p> <p>3) 指定された項目について対象に必要な援助を考えるために、どのような情報が必要か調べる。</p>	<p>事前資料の様式は自由であるが、コピーのみの提出は、受け付けない。</p>
1日目	<p>8:30~15:00</p> <p>実習施設の実習病棟にグループでまとまって行き、挨拶をする。</p> <p>(初日は、代表或いは全員で看護部長に挨拶をするので、行動は早めに予定する)</p> <p>○病棟オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の概要 ・看護物品の使用法 ・看護体制と業務の流れ ・患者の日課や週間予定 ・諸注意事項 <p>○患者カルテの見方の説明を受ける。</p> <p>各情報の取り方、見方、電子カルテの操作時の注意について説明を受ける。</p> <p>○患者紹介を受ける。</p> <p>事前に決められている場合は、どの患者どの学生の受け持ちか、リーダーが実習指導者に報告する。</p> <p>○患者へ挨拶し関係性が持てるよう行動する。</p> <p>○配膳の準備と配膳見学</p>	<p>▲身だしなみに注意し、実習生としての自覚をもった行動をする。</p> <p>▲前回と同じ病棟で実習する場合は、自ら病棟を探索し、学習に必要な設備やルールを理解する。</p> <p>▲初めて使用する病棟の場合は、一連のオリエンテーションを受ける。</p> <p>1) 患者の情報の取り扱いに関する規定及び守秘義務・個人情報保護における規範行動を理解する。</p> <p>(1) 個人情報の取り扱い、守秘義務 (2) 患者の権利擁護（アドボカシー） (3) 看護者の倫理綱領</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転記時に、不用意に患者氏名を書いていないか。 ・実習記録の取り扱いや管理に不備はないか。 <p>2) 受け持ち患者の疾患名、治療方針、治療内容、禁忌事項について説明を受け、事前学習と照らして学習を進めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルテにより、必要な情報を見つけることができる。 ・不明な点や理解できないことなど、積極的に質問や相談ができる。 <p>3) 適切な言葉遣い、態度で丁寧に対象に対応できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員により、実習期間の受け持ちの承諾を得る。 ・契約により、患者の情報管理や倫理について理解する。 	<p>事前学習</p> <p>実習記録 (行動計画表)</p>

	<p>午後 ○受け持ち患者の情報収集を進める。</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス</p> <p>次の日の行動計画を各自で確認し、グループとしての行動計画を立てる。</p>	<p>4) 自分から進んで対象とコミュニケーションをとることができる。</p> <p>(1) 対象の入院目的 (病気、症状、治療など) (2) 対象の入院前の生活状況 (3) 療養環境</p> <p>5) 互いに協力し、行った援助を振り返る重要性に気づくことができる。</p> <p>(1)リーダーシップ、メンバーシップ (2)グループダイナミックス ・カンファレンスのテーマは、グループで考え、運営する。</p>	
<p>2 日 目</p>	<p>8:30～15:00</p> <p>病棟へ全員そろって挨拶 病棟の引き継ぎ事項を看護師とともに聞く。 その後、行動計画の発表を指導者に行う。 (病棟により目標を引き継ぎ時に発表する場合もある)</p> <p>目標確認後、受け持ち患者の担当看護師に、本日の行動計画を伝え、見学したい内容を伝える。</p> <p>環境整備の実施 できれば、学生担当の患者については協力して行う。</p> <p>それぞれの受け持ち患者を担当する看護師とともにケアの見学を行う。</p> <p>ケア見学以外の時間で、情報収集を引き続き行う。</p> <p>患者とのコミュニケーション</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス 自主的運営による</p>	<p>1) 前日の情報から、患者の状況に合わせた行動計画が記載できている。</p> <p>(1)行動目標は、患者の状況を考えている。</p> <p>2) 対象に行われている援助の目的を考えることができる</p> <p>3) 受け持ち患者に行われている看護援助を見学し対象に行われている援助について考えることができる。</p> <p>(1)バイタルサイン測定、観察項目の確認 (2)予定されている生活援助の内容 (3)行われている治療や検査内容</p> <p>4) 対象の療養環境について述べることができる。 療養環境の観察の視点 室温、湿度、臭気、明るさ ベッド周囲の環境 (清潔度、整理整頓) リネン、寝衣の状況 プライバシーの確保 私物の管理に配慮できる。</p> <p>5) 対象の状態を観察できる</p> <p>(1)対象の状態の観察 ・バイタルサイン測定 ・フィジカルイグザミネーション</p> <p>6) 対象の日常生活の状態 (食事・排泄・活動・休息・清潔) を述べることができる。</p> <p>(1) 清潔・衣生活の観察の視点 (2) 食事・排泄の観察の視点 (3) 姿勢・活動、休息・睡眠の観察の視点 (4) ROM と生活行動、1日の過ごし方 7) 対象の日常生活行動の制限に気づくことができる。 8) ヘンダーソンのアセスメントガイドを基に事前学習と照らし合わせて情報を得ることができる。 対象の疾患の状態と行動の関連性 対象の言動・表情 言葉からの読み取り 非言語的コミュニケーション 看護師への発言内容</p>	<p>実習記録 (行動計画表)</p> <p>援助計画記録</p> <p>実習記録1号用紙 実習記録2号用紙 (看護過程記録)</p>

<p>3 日 目</p>	<p>8:30～15:00 病棟へ全員そろって挨拶 病棟の引き継ぎ事項を看護師とともに聞く。 その後、行動計画の発表を指導者に行う。 (病棟により目標を引き継ぎ時に発表する場合もある) 実際に実施したい内容については、援助計画を基に確認を受ける。</p> <p>目標確認後、受け持ち患者の担当看護師に、本日の行動計画を伝え、見学、或いは実施したいケアの内容を伝える。 行うケアについては、援助計画に基づいて発表する。</p> <p>環境整備の実施 できれば、学生担当の患者については協力して行う。</p> <p>バイタルサインの測定の実施 必ず教員或いは、指導者で行う。</p> <p>昼食休憩は、患者にスケジュールに合わせ、計画する。</p> <p>生活援助技術の実施 必ず教員或いは、指導者で行う。</p> <p>援助実施後の振り返りを教員或いは指導者で行う。</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス</p>	<p>1) 前日の情報から、患者の状況に合わせた行動計画が記載できている。 (1)行動目標は、患者の状況を考えている。 2) 対象に行われている援助の目的を考えることができる (1) 前日の見学を参考に援助計画が、患者に合わせた内容であること。 (2)日常生活援助技術 ・清潔の援助、整容 ・口腔ケア、食事介助 ・シーツ交換 ・排泄援助、体位変換 (3)対象の個別性 (4)援助計画の立案 ・援助の根拠 ・原理・原則 ・動作経済性 (5)安全・安楽に基づいた実施方法の工夫 ・対象の準備 ・環境の準備</p> <p>3) 受け持ち患者のバイタルサインが測定できる。 (1)日頃の患者の状況を確認している (2)バイタルサイン測定の基本技術 ・フィジカルイグザミネーション (3)患者への説明と承諾</p> <p>4) 立案した援助計画に基づき、患者の個別性に合わせた内容で実施 (1)日常生活援助技術 ・清潔の援助、整容 ・口腔ケア、食事介助 ・シーツ交換 ・排泄援助、体位変換 (2) 対象の個別性 (3) 援助計画の立案 ・援助の根拠 ・原理・原則 ・動作経済性 (4) 安全・安楽に基づいた実施方法の工夫 ・対象の準備 ・環境の準備 (5) 実施中の観察及び対象とのコミュニケーション (6) 後片付け (7) 正確な報告 (8) 客観的な振り返り</p>	<p>実習記録 (行動計画表) 援助計画記録</p> <p>援助計画</p> <p>実習記録1号用紙 実習記録2号用紙</p>
<p>4 日 目</p>	<p>8:30～15:00 病棟へ全員そろって挨拶 病棟の引き継ぎ事項を看護師と共に聞く。 行動計画の発表を指導者に行う。 ・病棟により目標を引き継ぎ時に発表する場合もある ・実際に実施したい内容については、援助計画を基に確認を受ける。</p>	<p>1) 受け持ち患者の本日の体調をつかむ。 (1) 継続した状況の把握 2) 対象に則した援助計画の立案 ・実施した援助計画を対象を中心に振り返り、より患者の個別性のある内容に修正できている。</p>	<p>実習記録 (行動計画表) 援助計画記録 実習記録1号用紙 実習記録2号用紙</p>

	<p>目標確認後、受け持ち患者の担当看護師に本日の行動計画を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助は見学か、或いは実施かその内容を伝える。 ・行う援助について、援助計画に基づいて発表する。 <p>指導者・教員とともに実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備 ・バイタルサイン測定 ・日常生活援助の実施 <p>実施後の振り返り 患者とのコミュニケーション 不足の情報を確認し、進める。</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス</p>	<p>3) 患者における援助の意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助の目的は患者にとってどうであったか。 ・援助は、患者にどのように影響したのか。 ・患者の安全性・安楽・自立をどのように考えるか。 ・観察は患者に即した内容であり、バイタルサインの測定が原則に基づき、正確に測定できたか。 ・身体、社会、精神面の情報から患者をどのようにとらえることができたか。 	<p>実習評価書の提出</p>
5 日 目	<p>8:30～15:00</p> <p>病棟へ全員そろって挨拶 病棟の引き継ぎ事項を看護師とともに聞く。</p> <p>行動計画の発表 実施内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備 ・日常生活援助の実施 ・バイタルサイン測定 <p>午前中を中心に実施計画を立てる。</p> <p>午後 指導者・教員・学生による面接 1名：10分程度</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス 病棟スタッフ及び患者への挨拶</p>	<p>4日目と同様 体験できなかった項目や不足の内容を考え、実践する。</p> <p>5日間の患者との関係を振り返る。</p> <p>行った援助を振り返る重要性に気づくことができる 対象と自己との関係について振り返り、表現できる 相手の思いや考えを受けとめそこから学ぶ姿勢を持てる わからない点について、質問できる目標達成に向けて意欲的に取り組むことができる</p> <p>実習のまとめ 実習目的に添いながら、気づきや感じたこと、考えたことを表現できること</p>	<p>実習記録（行動計画表） 援助計画記録 実習記録1号用紙 実習記録2号用紙</p> <p>実習評価表</p>

《提出記録》 実習記録は、一つのファイルに次の順序で閉じ、指示された日時に提出する。

- ①評価表
- ②出席表
- ③情報消去届（必要時）
- ④実習行動計画表（日々記録）
- ⑤援助計画記録
- ⑥実習記録（看護過程）1号用紙
- ⑦実習記録（看護過程）2号用紙
- ⑧事前学習

3)基礎看護学実習Ⅱ

日程	行動予定	学習内容	記録
事前学習	<p>実習全体オリエンテーションを受ける。</p> <p>実習準備学習を進める。</p> <p>看護技術の練習をする。</p>	<p>1) 基礎看護学実習Ⅱの実習目的を理解する。</p> <p>2) 実習施設、場所、グループメンバーが決定したら、施設の特徴について情報を得る。</p> <p>3) 病棟の特徴、概要については教員によりオリエンテーションを受ける。</p> <p>4) 実習前週に受け持ち患者の情報が得られる場合は、担当教員から、患者の情報を提示されるので、グループ間で話し合いにより受け持ち患者を決定する。</p> <p>5) 事前学習をする。</p> <p>(1)受け持ち患者の疾患の学習方法</p> <p>①患者の疾患について学習をしておく。</p> <p>②疾患の学習は、病名からだけでなく、その疾病の為に体のどの部分に障害があり、生活にどのように支障が生じているか考える。</p> <p>受け持ちが決まらない場合は、その病棟に多く入院する疾患から調べておく。</p> <p>(2)看護過程の展開については、授業の振り返りをする。</p> <p>(3)解剖生理学、病理学、生化学などの基礎知識となる科目の復習をする。</p> <p>(4)必要となる看護技術援助計画を立て、看護技術の練習をする。</p>	<p>事前資料の様式は自由であるが、コピーのみの提出は受け付けない。</p>
1日目	<p>8:30~15:00</p> <p>実習施設の実習病棟にグループまとまって行き、挨拶をする。</p> <p>(初日は、代表或いは全員で看護部長に挨拶するので、行動は早めに予定する)</p> <p>○病棟オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の概要 ・看護物品の使用方法 ・看護体制と業務の流れ ・患者の日課や週間予定 ・諸注意事項 <p>○受け持ち患者への紹介と承諾書を受けとる。</p> <p>○患者とのコミュニケーションとカルテからの情報収集を開始する。</p> <p>15:00~16:00</p> <p>学生カンファレンス</p>	<p>▲身だしなみに注意し、実習生としての自覚をもち、挨拶や態度を意識した行動がとれるように心がける。</p> <p>▲自ら病棟を探索し、学習に必要な設備やルールを理解する。</p> <p>1) 患者の情報管理に関する規定を守り、個人情報保護に基づき、秘守義務を果たす。</p> <p>2) 対象を尊重した言葉遣い、態度をとることができる。</p> <p>3) 場の状況に応じたコミュニケーションをとることができる。</p> <p>4) 対象の思いを気遣い配慮できる</p> <p>(1)基本的なコミュニケーションの方法</p> <p>(2)対象への接し方・接遇</p> <p>(3)良好な人間関係成立の要素</p> <p>(4)患者一看護師関係</p> <p>(5)患者の権利擁護</p> <p>(6)対象との関係成立のための技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ①現象を捉える技術 ②対象の思いを知る視点 ③相手を尊重する技術 <p>カンファレンスのテーマは、学生が自主的に決定し、あらかじめ指導者に昼ごろまでに報告しておく。</p> <p>カンファレンスの運営は、司会、書記を毎回決めて学生が主体的に行う。</p>	<p>事前学習</p> <p>実習記録(行動計画表)</p> <p>実習記録1号用紙</p>
2日目	<p>8:30~15:00</p> <p>病棟へ全員そろって挨拶</p> <p>病棟の引き継ぎ事項を看護師とともに</p>	<p>1) 日々の行動計画は、患者のスケジュールに添い立案し、前日の情報と照らして、実施可能か判断することができる。</p>	

	<p>に聞く。 その後、行動計画の発表を指導者に行う。(病棟により目標を引き継ぎ時に発表する場合もある)</p> <p>目標確認後、受け持ち患者の担当看護師に、本日の行動計画を伝え、見学したい内容を伝える。</p> <p>環境整備 看護ケアの見学・参加 受け持ち患者のケアについて、受け持ち看護師の行動に従い、ともに行動する。</p> <p>患者とのコミュニケーション 情報の収集</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス</p>	<p>2) 行動計画の目標設定は、患者サイドに立った目標になるよう心がける。</p> <p>3) 見学及び実施したいと考えている援助については、あらかじめ、援助計画を作成して臨む。</p> <p>(1)日常生活援助技術を中心に対象に必要なとする生活援助を考える事ができる。</p> <p>(2) 受け持った対象の特徴を考えることができ、対象に合った技術を工夫できる。</p> <p>(3)援助計画は、根拠を踏まえ、原理原則に従い考えられる。</p> <p>(4)安全・安楽に基づいた実施方法の工夫がある。</p> <p>(5)実施中の観察及び対象とのコミュニケーション</p> <p>(6)後片付け</p> <p>(7)正確な報告</p> <p>(8)客観的な振り返り</p> <p>4) 患者の情報を整理し、全体像が描ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の疾患の概要と症状を関連付けて述べる事ができる ・対象の入院前の生活について述べる事ができる ・対象の疾患・家族・仕事等に対する思いについて述べる事ができる <p>(1)疾患に関する解剖生理、病態生理</p> <p>(2)原病歴、既往歴</p> <p>(3)生活習慣と疾患との関連</p> <p>(4)家族構成、社会背景</p> <p>疾患が及ぼす心理的・社会的影響、生活への影響</p>	<p>行動計画記録 実習記録1号用紙 実習記録2号用紙 援助計画記録</p>
学 内 日	<p>学内学習 9:00～16:10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の全体像を把握し、患者の具体的な援助を導くための学習の整理を行う。 ・記録に添いながら、情報を整理し、各カテゴリーのアセスメントを行う。 ・援助計画の立案と修正と技術練習 	
3 ・ 4 日 目	<p>8:30～15:00 病棟へ全員そろって挨拶 病棟の引き継ぎ事項を看護師とともに聞く。 その後、行動計画の発表を指導者に行う。(病棟により目標を引き継ぎ時に発表する場合もある)</p> <p>本日の行動計画に添い、教員、指導者の確認を受けた後は、行動計画により、患者のケア、患者とのコミュニケーションなど実践を進める。</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス</p>	<p>1) 行動計画には、前日の情報で立案しているため、本日が立てた計画で可能かどうか、夜間の情報や引き継ぎの内容を活かし修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急な検査や予定変更などがあった場合は、指導者、教員と相談し、行動計画を変更する。 ・変更内容は、学習可能な範囲とする。病棟の資料や各自の参考書で対応する。或いは見学とする。 <p>2) 対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。</p> <p>(1)情報が整理できる</p> <p>(2)情報をアセスメントし対象の全体像を把握することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程のプロセス <ul style="list-style-type: none"> ①情報収集、情報のカテゴリー化 ②分析・解釈の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常在条件 ・ 基本的欲求の充足度 ・ セルフケア能力 ③推定問題、強みの抽出 	<p>実習行動計画</p> <p>実習記録1・2号用紙 援助計画</p>
2週 5 ・ 6 日	<p>8:30～15:00 病棟へ全員そろって挨拶 看護師の引き継ぎに参加し、情報を得る。 行動計画の確認を受ける</p>	<p>1) 1週目で得た情報から、患者の概要はつかむことができている。週末や夜間の情報の確認、引き継ぎの内容を活かし計画の修正ができる。</p> <p>2) 受け持ち患者のスケジュールに合わせた行動計画、目標を考えて立てられている。</p> <p>3) 学生個々の行動計画をお互いに情報交換し、指導者・教員</p>	<p>実習行動計画</p>

目	<p>各自の行動計画に添い、指導者・教員とケアのスケジュールに合わせ実践していく。</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス 受け持ち患者の全体像について</p>	<p>と相談し、実習計画が調整できる。</p> <p>4)バイタルサイン測定は実施できている。 5)受け持ちの患者と会話できている。</p>	<p>実習記録1・2号用紙 援助計画</p>
学内日	<p>学内学習 9:00～16:10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の全体像を把握し、患者の具体的な援助を導くための学習の整理を行う。 ・記録に添いながら、情報を整理し、各カテゴリーのアセスメントを行う。 ・関連図を修正する。 ・情報収集の過程を基に患者とのコミュニケーションについて振り返ることができる。 ・患者の日常生活上の課題を抽出する。 ・技術の練習 	
7・8日目	<p>8:30～15:00 看護師の引き継ぎに参加し、情報を得る。 行動計画の確認を受ける</p> <p>各自の行動計画に添い、指導者・教員とケアのスケジュールに合わせ実践していく。</p> <p>必要とする日常生活援助技術の実施</p> <p>指導者・教員による面接 1名：10分程度</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス 看護計画について</p>	<p>1) 受け持ち患者のスケジュールに合わせた行動計画、目標を考えて立てられている。</p> <p>2) 患者の日常生活上の課題を意識した計画を出している。</p> <p>3) 学生個々の行動計画をお互いに情報交換し、指導者・教員と相談し、実習計画が調整できる。</p> <p>4) 看護を提供中、患者の反応を確認しようとしている。</p> <p>5) 患者とのコミュニケーション過程を振り返る。</p> <p>(1)自己洞察 (2)他者理解 (3)人間関係技術 (4)受容・共感・傾聴 (5)防衛機制 (6)実践した援助の振り返り</p>	<p>実習行動計画</p> <p>実習記録1～3号用紙 援助計画</p>
3週9・10・11日目	<p>8:30～15:00 看護師の引き継ぎに参加し、情報を得る。 行動計画の確認を受ける</p> <p>各自の行動計画に添い、指導者・教員とケアのスケジュールに合わせ実践していく。</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス</p>	<p>1) 2週目に立てた計画内容で、実習行動計画が立てられる。</p> <p>2) 学生カンファレンス等のアドバイスが活かされている。</p> <p>3) 看護計画による実践を振り返ることができ、修正しようと試みている。</p> <p>4) 自己の学習課題に気づくことができる。</p>	<p>実習記録(行動計画表) 援助計画記録</p> <p>11日目は、自己評価を担当教員へ提出 実習記録1～3号用紙</p>
12日目	<p>8:30～15:00 午前中を中心に実施計画を立てる。</p> <p>午後 指導者・教員・学生による面接 1名：10分程度</p> <p>15:00～16:00 学生カンファレンス 病棟スタッフ及び患者への挨拶</p>	<p>体験できなかった項目や不足の内容を考え、実践する。</p> <p>行った援助を振り返る重要性に気づくことができる 対象と自己との関係について振り返り、表現できる 相手の思いや考えを受けとめそこから学ぶ姿勢を持てる わからない点について、質問できる目標達成に向けて意欲的に取り組むことができる</p> <p>実習のまとめ 実習目的に添いながら、気づきや感じたこと、考えたことを言葉で表現できる。</p>	<p>実習記録(行動計画表) 援助計画記録 実習記録1～3号用紙</p> <p>実習評価表</p>

《提出記録》

実習記録は、一つのファイルに次の順序で閉じ、指示された日時に提出する。

- ①評価表
- ②出席表
- ③情報消去届（必要時）
- ④実習行動計画表（日々記録）
- ⑤援助計画記録
- ⑥実習記録（看護過程）1～3号用紙
- ⑦事前学習

基礎看護学実習Ⅱ 実習予定表

週	月	火	水	木	金	備考
1 週目	1日目	2日目	学内日	3日目	4日目	<p>〔太枠〕</p> <p>→記録提出の目安</p> <p>〈学習状況の把握〉 実習中間で学生と面談を行う。実習の進捗状況の把握と実習後半に向けた自己の課題を明確にする</p> <p>〈その他〉 学内日に入る前、週末に入る前は、学生の課題と取り組む学習内容を明確に示して頂きたい</p> <p>〈最終カンファレンス〉 ポジティブアプローチとして、学生同士がお互いの良いところを伝え合う</p>
	→実習オリエンテーション →受け持ち患者の選定 →患者紹介と挨拶 →カルテ・患者より情報収集	→援助・コミュニケーションを通して情報収集 →援助の見学及び一部実施 ※援助計画を作成して臨むこと	→アセスメントに必要な情報のカテゴリー化 →各カテゴリーのアセスメント →見学及び一部実施した援助計画の修正 →必要な技術練習	→アセスメントを行う上での不足情報を収集・整理 →援助計画に基づいて看護師と共に援助実施 →各カテゴリーをアセスメント	→アセスメントを行う上での不足情報を収集・整理 →援助計画に基づいて看護師と共に援助実施 →各カテゴリーをアセスメント	
1号用紙:情報整理	援助計画用紙		2号用紙:アセスメント			
2 週目	5日目	6日目	学内日	7日目	8日目	
	→援助計画の修正と援助の実施 →各カテゴリーをアセスメント	→援助計画の修正と援助の実施 →各カテゴリーをアセスメント	→全体像の把握 →各カテゴリーをアセスメント →援助計画の修正と援助の実施 →必要な技術練習	→全体像の把握・追加 →各カテゴリーをアセスメント →援助計画の修正と援助の実施	→全体像の把握・追加 →各カテゴリーをアセスメント →援助計画の修正と援助の実施 〈中間面接〉	
2号用紙:アセスメント		3号用紙:全体像				
3 週目	9日目	10日目	11日目	12日目	学内日	
	→全体像の把握・追加 →各カテゴリーをアセスメント →援助計画の修正と援助の実施	→全体像の把握・追加 →各カテゴリーをアセスメント →援助計画の修正と援助の実施	→全体像の把握・追加 →各カテゴリーをアセスメント →援助計画の修正と援助の実施	→全体像の把握・追加 →各カテゴリーをアセスメント →援助計画の修正と援助の実施 〈最終面接〉	→実習のまとめ →実習記録提出: (〇時〇分まで)	
3号用紙:関連図						
2号用紙:アセスメント						